

総合支所の組織再編は慎重に

質問 平成の大合併で奥州市が誕生し、10年目を迎えた。これまでの市政運営は合併協定で取り決めた総合支所方式で行なわれてきたが、今後も第二次適正化計画で大幅に職員数が削減される計画もあることから、今年度を一区切りとし、平成28年度から本庁方式に切り替える組織再編計画が示された。今後の総合支所の体制整備および、業務内について市長はどのように取り組まれていく考えか。

市長 持続的な市の自治体経営のためには、財政の健全化を成し遂げなければならぬ。今後そのためには組織、人、仕事を一体で見直すことが不可欠である。その上で定員適正化計画による計画的な職員数の削減や事務事業・公の施設の見直しを進めているが、組織については平成28年度から本庁方式に移行し、本庁と支所の役割分担による効果的な体制を構築したい。

前沢診療所の再開を早期におこなうべき

質問 休所が続いている前沢診療所が、医療法人上の管理者が不在になって、まもなく1年を経過しようとしている。再開に向け努力されていると思うが、前沢診療所の早期の再開見通しと、医師確保に向けた対策等はどのような状況か。



前沢診療所の再開を

市長 まずは外来診療を再開したい思いには変わりはない。市民の皆様にご心配を掛けていますが、引き続き県医師支援推進室など、関係団体や医師紹介業者らへの働きかけを積極的に行なうなど、医師確保を進め、看護師など必要な医療スタッフの態勢も整え、何とか早期に再開できるよう今後も努力したい。



あきひろ 明 議員(日本共産党)

圃場整備と併せ通学路へ歩道の設置を



おの 隆夫 議員(平和会)

質問 農業基盤整備事業は農村における生活環境の総合整備でもあり、換地や農地の集約をすることで、公共用地の円滑な捻出が出来る事業でもある。事業との協調により捻出された用地を、公共用地として有益に活用することを積極的に考えるべきである。特にも子供たちが通学路として歩道の整備をどう考えているか。また、非灌漑期における消防水利確保のために、防火水槽の整備も有効と考えるがどう捉えているか。

方々と協議をし、進めていく。防火水槽の整備についても関係課と協議のうえ、必要な所には事業の中に取り込み進めていきたい。

奥州湖周辺の観光振興は

質問 胆沢ダムが完成し、奥州湖周辺を訪れる人が多くなっている。この観光資源をどのように生かしていこうとするのか。

市長 ダム湖、胆沢川を活用したカヌー、釣りなどの体験活動やダム湖周辺の風景や自然を楽しむ場としての観光振興を目指している。そのために奥州湖周辺の観光PRを積極的に行っていく。平成27年度は焼石連峰、胆沢平野等を一望できる奥州湖眺望台や奥州湖交流館への誘導看板を設置する。また、一関市祭時へのアクセス道路が本年秋に竣工の予定となっており、ルートの愛称の公募、開通プレイベントの開催などを考えている。



歩道のない通学路を登校する子どもたち